

横浜国際福祉専門学校 ○竹田久美子

お茶女大家政 袖井孝子

《目的》 家庭における老人介護能力の限界が指摘される中で、老人ホームなどの施設拡充が叫ばれている。しかし、いかに施設の設備や機能が向上しようとも、老人の精神的な支えとして家族の果す役割を無視することはできない。本研究においては、老人ホームにおける入所老人と家族の関係の現状をとらえると共に、施設が両者の関係の中でどのような役割を担っているのかを明らかにする。

《方法》 全国の特別養護老人ホーム1979か所のうち、大都市165施設、中小都市281施設、郡部225施設、計671施設を対象に1989年11月6日から11月25日にかけて郵送による質問紙法により調査を行った。回収数は444、回収率は66.2%である。調査票の記入は施設長あるいは主任指導員にお願いした。

《結果》 (1) 入所老人の特性 --- 入所者の平均年齢は80.6歳、男78.7歳 女81.3歳。一施設当たりの入所者数の平均は男20.9人 女56.1人、計77.0人である。平均在所期間は男42.0か月 女46.8か月。退所する理由は74.6%が死亡によるものであり、家庭復帰は5.1%となっている。(2) 老人と家族の関係 --- 家族の面会は「月1、2回」という老人が35.5%で最も多い。盆や暮れに帰宅する老人は一施設当たり15人前後であるが、大都市にある施設ほど帰宅者の数は少ない。最近5年間くらいの間に老人と家族の関係が「より緊密になった」と答えた施設は35.7%、「より疎遠になった」は16.5%であった。(3) 施設の対応・配慮 --- 老人と家族の関係をより緊密にするために施設は老人が家族と直接連絡を取るよう勧め援助したり、老人が家族の状況を理解するよう促している。家族に対しては、面会や宿泊を依頼し、施設の行事や生活を理解してもらい、積極的に参加するよう勧めている。9割以上の施設が家族宛に入所者の近況報告や行事の案内をしており、老人の心身の状態や経済問題などについて家族の相談相手になっていた。